
妄想黙示録

鳩

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妄想黙示録

【Nコード】

N8755A

【作者名】

鳩

【あらすじ】

某なろう推理小説家に荒らされ閉鎖に追い込まれた『もしも…だったら』が、なんと作者の持て余す暇により二年の歳月の末、蘇った。メインである『もしも…だったら』と実体験談的コラム『鳩のさえずり』は継承され、気分によって新コーナーも設立予定。「ケンシロウ!!ラオウはこのユリアが貰ってやるわ!!」

バウリングガル

《もし『バウリングガル』が進化したら、それはどうなるだろうか。》

皆さんご存知、犬の気持ちがわかるという『バウリングガル』は、犬愛好家にとって嬉しいプログラムである。

『お腹が減ったワン』

『散歩したいワン』

『寂しいワン』

などと愛犬の気持ちを感じ出来る事は、飼い主との絆を深めるのに更なる効果を与えるのだ。

察する先、私は近い未来にこの『バウリングガル』が飛躍的な進歩を遂げるかもしれないと踏んでいる。

テクノロジーの発展と共に、超微弱電子を利用したテレパシー工学がどうのこうの…まあ良くわからないが、そういった技術が生まれるかもしれないのだ。

それで仮に『超バウリングガル』が完成したとしたら、まずはペット業界に激震が走るだろう。『ドギーマン』や、トップブリーダー推奨『ペディグリーチャム』も黙ってはいない、ビックリする筈だ。

それはそうとこの『超バイリンガル』の機能は、旧作の曖昧な感情表現をよりリアルにするため、高精度なテレパシーシステムと多表現な音声プログラムによって形成されている。

つまり、犬の思っている事が人の言葉でダイレクトに伝わるのだ。便利この上ない。

一般家庭の犬に使った場合

さて、まずは予備知識として述べておこう。

犬は元来、集団生活を営む動物であったが為、周囲に階級をつけるのだという。こいつは上、こいつは下、という風に家庭でも犬はごく当たり前にそれをする。

早速、四人家族でやってみよう。

まず、長男が伏せている犬に近づき、起動。

『あんだよテメエ…まあた新しいゲームかよそれ？バカか、このゲーマーが！いつまで俺の前でやってんだよ？ああ！？消えるよ、咬み殺すぞこの童貞野郎が！』

酷い言われ様だが、長男の階級は地より下だった。

続いて長女、散歩中に起動。

『ういゝやっぱ散歩は昼に限るぜ。ん？姉ちゃん何だそりゃ？あつ、あのチンコが持ってたカスカ。それあいつから取り上げたんだろ？

粹だねえ〜やるじゃん！お…ちょっとウンコと…』

長女はタメだったらしい。好感を持てる様だ。

続いて母、ドッグフード投与時起動。

『おっ、飯だ！やったぜ！はいはい…あらすいません、いつもどうも、あざす。あっそこ気持ちいいっす！もつと撫でて、美味しいですよマジ、うん、うまいっす、うま、かゆ、うま…つてクソガキテメエ何見てんだゴルアアア！…！』

犬にとって、母は年上の女だった。

最後に父、帰宅時起動。

『あつ、お帰りなさい。どうでした今日は？…ああそうですか、大丈夫ですよ！明日なら特売日なんでお客さんいっぱい来ますよ！…ん？そ、それは「銀のスプーン」では？猫の餌ですよ？うわっ酒クサ！酔ってるんですか？そりや間違えますよ…ハハハ！』

父は犬の唯一神だった。

テレパシー機能に関しての補足

さて、モニターとなつてもらった田中家に感謝しよう。

しかしながら、テレパシー機能が出来た事で犬との交流が深まるのも悪くはない。だがどうだろう、これが更に発展したら他の動物にも使えるのではないか。はたまた、人に対しても使えるのではな

いか、想像は膨らむばかりである。

考察

人は秘密を知りたがる。だが、知らなくてもいい事実もある。『
超バウリンガル』はそれを逸脱し、人の記憶から薄れていくだろう。

……どうでもいい。

童話（前書き）

今回はくだらな過ぎますので、お気を付けください。

童話

《もしあの童話に続きがあったら、それはどうなるだろうか》

最近映画を見て思った。どうしてこう、新作映画の劇場予告というのは観賞意欲をそそのめるのだろうか。

あのミステリアスなナレーション…

あの謎に満ちた情景を伝える台詞…

あの何かが起こりそうな映像感覚…

観客に期待と好奇心を植え付けるその編集技術は、まさに圧巻の脱帽物である。

そしてテーマは『あの童話に続きがあったら』という事で、この映画に関する前説が『童話その後』とどう化学変化を起こし絡むか、申し上げよう。

すばり、あの童話の続編がハリウッド映画化した時の予告編、とこののを考えたいと思う。

桃太郎の続編があった場合

昔話の大御所である桃太郎だが、続編に関する話題は今も水面下で囁かれているだろう。社会の裏側で、彼らの魂が息付いているのだ。そして、ここからが私の脚本、編集である。

1、続編概要

パリのルーヴル美術館館長ジャック・ソニエールが、館内のグラ
ンド・ギャラリーにて殺害された。

ハーバード大学教授の宗教象徴学者ロバート・ラングドンは、ソニ
エールが血で残した『DOG』『MONKEY』『PHEASANT』というダイニングメッ
セージが、ある日本の秘密結社を示している事に気付く。その秘密結社は日本の昔話『桃太郎』に深く関係
し、ラングドンはソニエールの素性を彼の孫娘ソフィー・ヌヴウー
と共に探っていく。そして二人は、その秘密結社が抱える大きな秘
密をソニエールが握っていた事を知り、それと同時に強大な秘密結
社の魔の手が二人に忍び寄る。全ての答えは、江戸時代に広まった
草双子『桃太郎昔話』の書物に隠されていた。
今、日本最大の謎解きが始まる。

2、劇場予告編

「ラングドン君…」

（ドット…ドット…）

「ソニエールが殺された…」

（ドット…ドット…）

「実は桃太郎の話に続きがあるんだ」

『謎に埋もれた真実』

「彼らは莫大な金銀財宝を使い切れず、どこかに埋めたんだ」

『桃太郎の財宝』

「そして…桃太郎の一族は、実在する」

（ダダンッ！）

「ロバート！」

（ドッギヤアアン！）

「財宝の価値は途方もなく莫大だ」

『それは』

「もしそれを手に入れた者は…」

『桃太郎が遺した』

「世界を統べる…」

『日本最大級の秘密』

（ダンダンダンダン！）

「その秘密結社は一体何なんだ！？」

（ドンドンドンドンドンドン！）

「テンブル騎士団…遠い国の宗教勢力だ」

「……………こ…ろ…う…じゅ…ずみ…んいち…い…そんな馬鹿な！」

『驚愕の真実』

「小泉…純一郎…民主党がソニエールを！？」

「そんなに欲しいならくれてやる！」

「ラングドン…あれは…」

「平安時代に実在したとされる…鬼だ」

（ダン！ダン！ダン！ダン！ダン！）

《ザ・ピーチ・コード》

「全て、繋がったわ…」

（ババンッ！）

『今夏、世界同時上映！』

3、感想

今更、くだらなすぎると痛感した。読者の期待を裏切った気持ちで潰れそうである。

赤ずきんちゃんの続編があつた場合

グリム童話でもそこそ有名な赤ずきんちゃんだが、実は原作の世界はとても残酷で猥褻なのだという。暗黒童話まさかの改心、という訳だ。

1、続編概要

獵師でありながらその身をローマ教会に置くカラス神父は、ある日一通の手紙を受け取る。

それには、過去に狼から命を救った少女リーガンが重い病に苛まれ助けて欲しいという内容だった。医者でもないカラスは戸惑いながらリーガンの家に行く。しかし、リーガンの姿は物憑きによって醜く変貌していた。恐怖を覚え退いたカラスは、自分の愚かさと弱さに嘆き、そして決意する。リーガンを救う為、悪魔払いであるメリン神父と共に、戦いを挑む。

2、劇場予告編

（ハアアア……………）

「……………」

（ハアアア……………）

「……………何？」

（リイイイ……………ガン）

「イヤアアアア！」

（ダダダン！）

「…私は医者じゃない」

「お願いですカラスさん、孫娘を助けてください…」

『もう見るはずのなかった』

「リーガン！」

「ギャウツ！ハツ！ハツ！」

『悪夢の続き』

「私なんて…生きている価値はない…」

「カラス神父。主は、いつでもあなたの側におられます」

『少女を襲った悲劇』

（トツ…トツ…トツ…）

「…フフウウ…来たかカラス…」

『人間と悪霊の戦い』

「神の名において、この娘から立ち去れ！」

「黙れこの腐れ神父！地獄で母親が苦しんでるぞ？」

「カラス神父、耳を貸してはなりません」

『因果する恐怖』

「ギャアアアッ！」

「神は！罪深き私たちに言葉をあたえた！」

（バゴンッ！）

「そんな本でこの娘を救えるとも？！」

『そして』

「トリックオアトリート！菓子も悪戯も両方やるよ！」

「聖水が効かない！」

『暴かれる悪霊の正体』

「もう一度言う！神の名において、名を名乗れー！！！」

「ヒヤッハッハ！井戸の中は、暗くて寒くて苦しかったぜ？カラス
よおー！」

『衝撃の結末』

「メリン神父！メ…このクソ狼がああ！！！！」

（アァーアァーアァーアァー）

《エクソシスト》

「うっ…うっ…ありがとう…」

(ドドンッ！)

『来春、公開予定！』

3、感想

またしても外した気がする。

考察

やはり映画も童話もいいもので、長く心に留まって生きる教訓となる。しかし…今回はちょっと…

……………どうでもいい

『もしも〜だったら...』VOL・1 バタ子

《もしも、バタ子の投球技術を数値化出来るとしたら、それはどうなるだろうか》

本当に久しぶりな今回は、誰もが疑問に持つであろう、あのバタ子の驚異的なコントロールについて考えてみたいと思う。

その前に、バタ子についての一考察を述べておこう。

バタ子とはそもそも、やなせたかし原作『アンパンマン』に登場する女性キャラクターである。アンパンマンが街の平和を守り、物をモチーフにした魅力的な登場人物や悪役バイキンマンとの関わりがほのぼのと描かれている。

話の概要としては毎回展開が同じであり、アンパンマンが弱点である顔をバイキンマンに汚され、そこに助っ人としてバタ子がジャムおじさんの作った顔を投げるのだ。

その投球と言ったら神を思わせる、まさに『針をも通すコントロール』である。どのような状況下でも確実にアンパンマンの顔面を捕らえ、勝利に貢献する。

類稀な才能を得てして、バタ子はそれを何とするのか。音速の壁を、叩いて砕く、バタ子がやらねば、誰がやる。

1、バタ子の能力を検証し、数値化してみる

まずは球速であるが、私が覚えている限りで

「アンパンマン！ニューフェイスよ！」

と言って手から顔が離れ、交換されるまでの描写（時間）が確か一秒に満たなかった気がする。妥当な数値は0・85秒としておこう。

そして距離であるが、私の少ない記憶を辿ると少なくとも50m以上はあった。

つまり、最短距離が50mだとして0・85秒間到達の計算をす

ると、秒速58・82mという数値が弾き出される。

これを時速に変換しよう。一時間は3600秒、これで

$$58 \cdot 82 \times 3600 = 211752$$

となる。一時間で211752m進む距離なら、もうお分かりであらう。

バタ子の推定最高球速は、約212km/hという事になる。尋常ではない。

次はバタ子の最大の特徴であるコントロールだが、言うまでもない。具体的に表すなら、百発百中であらう。『針の穴を通す』という言葉は、まさにバタ子の為にあるようなものだ。

……………白状しよう。

正直な話、そんなの数値出来ない。

『もしも』だったら... VOL.1 バタ子（後書き）

文字少なくてすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8755a/>

妄想黙示録

2010年11月8日09時56分発行